

学校教育目標 (教育方針)	「至誠一貫」の校訓のもと、人間尊重の基盤に立ち、知・徳・体の調和のとれた人格形成をめざし、自他に対して至誠を貫き、自主・自律の精神と創造性に富む資質の啓発を期する。	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知・徳・体の調和のとれた人格を形成し、心豊かな情操と道徳的実践力を持つ生徒 ・ 何事にも自主的・自律的に取り組む姿勢と創造性に富む資質を身に付けた生徒 ・ 地元地域を愛し、仲間とともに将来の地域社会へ貢献していく生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎基本を重視した学習指導や探究活動を通じた学力の向上 ・ 学校行事や部活動等を通して生徒相互が切磋琢磨し、主体的に学び考える能力の育成 ・ 単位制の利点を生かして多くの選択科目を展開し、生徒一人一人が個性の伸長を図りながら自己の進路を実現
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義務教育段階の基礎的な能力を身に付け、さらに高い能力を目指し自分を向上させたい生徒 ・ 進学を志し、自分に合った選択科目を主体的に学習して自らの可能性へ挑戦する生徒 ・ 生徒会活動や部活動、地域活動などに積極的に参加し、より良い学校生活や地域社会を築いていこうとする意欲のある生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西濃地区における子どもの数が減少していく流れに対応しきれていない。 ・ 前向きに学習活動に取り組むことができるが、家庭学習の習慣や基礎・基本の定着が不足している生徒が見られる。 ・ 自己の可能性や将来への幅広い選択肢に気づけていない生徒が多い。 ・ 大人しくまじめな生徒達であるが、周りにはたらしかけて協働してきた経験が少なく、自ら率先して一步を踏み出すことに躊躇してしまう。 ・ 自転車通学が多い中、交通安全などに対する知識や実践がやや不足している。 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	学びの重要性や家庭学習の必要性を認識させ、学習習慣の定着を図るとともに、自ら学びを深める生徒を育成する。
	進路指導	生徒一人一人のキャリア教育を推進し、主体的な進路選択による進路実現を支援する。
	生徒指導	挨拶の励行や時間の厳守等の基本的なマナーやルールを身に付ける。また、お互いを尊重し、安心・安全な学校生活を送ることができるよう支援する。
	特別活動	生徒一人一人が活躍できるような学校行事を工夫したり、校外のボランティア活動等への参加機会を増やしたりすることで、自己肯定感を高め、自信へと繋げる。

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学習指導	基礎・基本の確実な定着を図るとともに、補習等によりさらなる学力の向上を図る。	8	施策Ⅱ-8
	自ら学ぶ意欲を高め、家庭学習などで自分に必要な学習に主体的に取り組む姿勢を培う。	8	施策Ⅱ-8
	思考力・判断力・表現力を高められるよう授業改善に取り組む。	8	施策Ⅱ-8
	ICT機器の活用により、学習手段や学習方法の幅を広げ、より効果的な学びとなるよう実践する。	9	施策Ⅱ-9
進路指導	地元自治体や企業と連携し、探究活動を中心とした教科横断的・総合的な学びを推進する。	4	施策Ⅰ-4
	キャリア探究に関わる学習活動を通して、自己実現の在り方を主体的に考えさせる。	13	施策Ⅱ-13
	生徒の進路実現につながる各種ガイダンス・インターンシップなどを実施する。	13	施策Ⅱ-13
	探究活動を通して、課題解決のために必要な判断力や行動力、他者と協働する力を育成する。	12	施策Ⅱ-12
生徒指導	円滑な人間関係を構築するための基本的なマナー・ルールを身に付けられるよう支援する。	1	施策Ⅰ-1
	SNS等の安全・安心な利用を推進するために、情報モラルを身に付けられるよう支援する。	9	施策Ⅱ-9
	独自の工夫ある取組を通じて、防災教育、交通安全教育の充実を図る。	19	施策Ⅲ-19
	教育相談体制を確立し、生徒に寄り添った心のケア、早期発見、早期対応を行う。	3	施策Ⅰ-3
特別活動	文化祭や球技大会等の学校行事が生徒個々の活躍の場となるよう工夫する。	1	施策Ⅰ-1
	校内に留まらず校外での活動に積極的に参加することで自主的な姿勢を高める。	4	施策Ⅰ-4
	身近な地域清掃活動等の機会を増やすことで、生徒のボランティア精神の向上を図る。	7	施策Ⅰ-7
	部活動において、それぞれの役割を着実に果たすことにより、責任感や協調性、自己有用感を高める。	1	施策Ⅰ-1

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年2月6日

<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習やスマホ使用の時間、調査結果など生徒個々の状況を把握し、生徒が主体的に自らに必要な学習に取り組めるよう支援する。 教員間で互いに授業参観を継続し、学び合う教師集団の構築と授業の改善を行う。 探究活動等において、地方自治体や企業との連携をより推進していく。また、実施後のフィードバックによって成果と課題を明確にし、次年度に活かしていく。 社会への関心が「自分事」の起点となる。「キャリア探究の時間」の中で自己との社会との繋がりが感じられる内容をより多く組み込む。 MSリーダーズによる交通安全活動を定期的に実施し、生徒主体の啓発活動をより充実させる。 他者への思いやりの心や身近な環境を大切にすることを涵養するため、校内だけに留まらず、地域の人たちとの奉仕活動やボランティア活動等、豊かなふれあい体験の機会を設定する。 文化祭等の全校生徒が関わる行事において、テーマ設定に工夫を凝らすなど、生徒一人一人が自分自身について、そして周りの人々や世の中について考える機会となるようにする。 全校生徒がその活動の意義を学ぶと同時に連携意識を高めるきっかけとするため、昼の放送や学校新聞、全校集会等の機会を使って各種委員会の取り組みやその状況報告、活動協力の依頼等を行う。

年度末評価(自己評価)			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
<ul style="list-style-type: none"> 小テストの実施により基礎・基本の定着を目指した。全年次の火曜の補習と3年次の土曜補習を実施した。 授業アンケートを実施し改善に取り組んだ。 年次部が中心となり生徒に家庭学習時間を記録させ振り返りの一助とした。 教員による相互授業参観を年度末に実施し授業改善に生かした。 MetaMojiなどのソフトの利用や、オンライン学習支援でタブレットを使用した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 国数英などで計画的に小テストを実施し、生徒が目標をもって取り組むことができた。 授業アンケートの「授業の内容がきちんと理解できている」に肯定的評価をした生徒が85%であった。 模試結果では、苦手分野が明らかとなり、状況に応じて指導している。 家庭学習時間は、生徒間のばらつきが多く全体的に不足している。スマホ使用時間と家庭学習時間の相関関係を知らせ、生徒の意識を高めた。 	B
<ul style="list-style-type: none"> 探究テーマに応じて地元企業や福祉施設、自治体などへ赴き、探究活動を進めた。 各年次で進路実現に向けた講話や適性検査等を実施し、自己を見つめる機会を設けた。 インターンシップや公務員、教職、医療系等各种ガイダンスを実施した。懇談中に実施のガイダンスでは保護者にも募集を行った。 探究活動において情報収集、分析、まとめなど、グループで協働して活動した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動の生徒自己評価(中間発表後評価)において活動開始時より全項目で力が伸びたという回答が得られた。特に「他者に伝える」の伸びが大きかった。 各種ガイダンスでは、生徒の感想から参加による理解の深まりが伺えた。 教員からの助言、後押しを必要とする生徒が多い。自分事として考え、主体的に行動する力の育成を図りたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> MSLや保護者による朝のあいさつ活動、身だしなみ確認を実施し、基本的なマナー・ルールを身に付ける支援をすることができた。 情報モラル講話を警察署と連携して実施し、SNS等を正しく使えるよう支援することができた。 命を守る訓練や交通安全講話を実施し、防災教育、交通安全教育の充実を図ることができた。 心のアンケートやSCによるカウンセリングを定期的に実施し、生徒に寄り添った心のケアをすることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒及び保護者へのアンケートで「高校生としてのマナーや規範意識を身に付けさせるための指導を行っている」の肯定的評価が、保護者が92%、生徒は95%と高い評価である。 今年度は遅刻者数も多く、例年よりかなり増加(前期終了時:昨年度362件→今年度677件)したが、不登校傾向の生徒が、遅刻してでも学校に来た結果でもある。 登下校時の交通事故の件数は増加(前期終了時:昨年度7件→今年度13件)している。 	
<ul style="list-style-type: none"> 文化祭や球技大会等の学校行事では、昨年のアンケート結果をもとに、全校生徒が積極的に取り組めるような工夫を行った。 あしなが学生募金、世界の子どものワクチン接種に向けたペットボトルキャップの回収等、全校生徒に向けて活動を展開した。 地域貢献の一環として全校生徒にボランティアを募り、大谷川周辺の大規模な清掃活動を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒及び保護者を対象とするアンケートにおける項目「ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している」の肯定的評価が生徒が6.1ポイント、保護者が4.1ポイント上昇した。 年を追うごとに学校行事やボランティア活動への生徒の取り組みが活発化し始めているが、一歩を踏み出せない生徒に勇気と自信を与えられるよう更に工夫する必要がある。 	

学校関係者評価

実施日：令和7年2月6日

<ul style="list-style-type: none"> 保護者が参加する進路関係の行事が多く設定されており、また参加者も多い。保護者が受けた頃と今では大学入試の制度も大きく変わっているため、よい取組みである。今後も継続して実施していく。 交通事故の増加について心配している。要因も分析しながら対策を講じていく。 ヘルメットの着用について、まだ非着用の生徒が多い。他校の生徒が着用していないと着用しにくい部分もあるので、地域の学校での連携も模索しながら着用率を上げるよう取組む。 進路指導部の「地元自治体や企業との連携」、特別活動部の「地域での活動」「豊かなふれあい体験」などすばらしい取組みである。今後も、地域との連携を深めながら継続していく。 行事等で生徒が活動できる場が増えていることは良いことである。また、部活動の加入率も高く活発に活動している。学習だけでなく、生徒会活動や部活動など、いろいろなところで活躍できる場があるところが本校の良いところである。 生徒自身が学校のスローガンを考えているのは、自分たちで自分たちの学校をつくっていくという思いが醸成される。また、様々な取組みの中で、生徒の帰属意識、仲間意識を高める工夫がなされている。大人になってから「よかった」と振り返ることができる高校3年間をつくることができている。
